

平成 29 年 9 月 30 日

北海道新聞

「全量1等」に農家安ど

しずない農協で新米初出荷



米袋から米を抽出して検査する農協の職員

【新ひだか】町静内で収穫された新米の初出荷が29日に始まり、町静内田原のしずない農協豊畑米検査場で等級検査が行われた。

検査したのは、町静内豊畑のこメ農家村田信治さん(50)のななつぼし約3・8ト。検査員が米粒を取り出し、水分量や色、粒の形などを調べた。低い方が食味が良いタンパク質の含有量は平年をやや下回り、全量が1等の評価を受け、村田さんは「ほっとしました」

と表情を緩めた。

今年は春先の気温が低かったが、7月の高温で遅れを取り戻し、品質はほぼ平年並みが予想される。一部では台風18号による倒伏があったため収穫作業に手間がかかり、営農部の丹野潤一次長は「収穫が遅れると品質の低下につながり、気がかりです」と話した。

静内地区では今年、34戸が約100畝に作付けし、約380トの収穫を見込む。低農薬などの基準を満